

平成 30 年 1 月 18 日
観 測 部

外国気象機関からのリクエストに応じた気象衛星観測の開始

～ ひまわりの機動観測がアジア太平洋地域の災害リスク軽減に貢献します～

気象庁は、国際協力の一環として、外国気象機関からリクエストされた領域に対して行う静止気象衛星ひまわりによる 2.5 分毎の機動観測 (HimawariRequest) を世界で初めて平成 30 年 1 月 18 日から開始します。

ひまわり 8 号及び 9 号では、10 分毎のフルディスク観測や 2.5 分毎の日本域観測と並行して、観測場所が変更可能な機動観測を 2.5 分毎に実施しています (別紙 1)。

現在、機動観測では、主に我が国の災害に直結する東アジア・北西太平洋地域の台風等の観測を行っておりますが、国際的な機動観測の有効活用について世界気象機関 (WMO) と協力し検討を進めてきました。

今般、外国気象機関からの観測リクエストの受付を 1 月 18 日から開始することとしましたのでお知らせします。

HimawariRequest の開始により、観測可能領域内にある諸外国において、通常提供している 10 分毎のフルディスク観測に加えて、2.5 分毎と短い時間間隔の画像が利用できるようなことから、例えば、火山噴火の早期検出や、噴火直後の噴煙や熱帯低気圧の構造変化の詳細監視など、ひまわりの観測データが火山噴火や熱帯低気圧等による災害リスク軽減により一層活用されることが期待されます (別紙 2)。

問合せ先：観測部 気象衛星課 担当 安藤・長田

電話 03-3212-8341 (内線 4842・2275) FAX 03-3217-1036

ひまわり 8 号及び 9 号の観測について

静止気象衛星ひまわり 8 号及び 9 号では、ひまわりから見える地球の全ての範囲をカバーする観測（フルディスク観測）や日本列島をカバーする場所固定の領域観測（日本域観測）と並行して、火山・熱帯低気圧監視等のための観測場所が変更可能な領域観測（機動観測）を行っています。

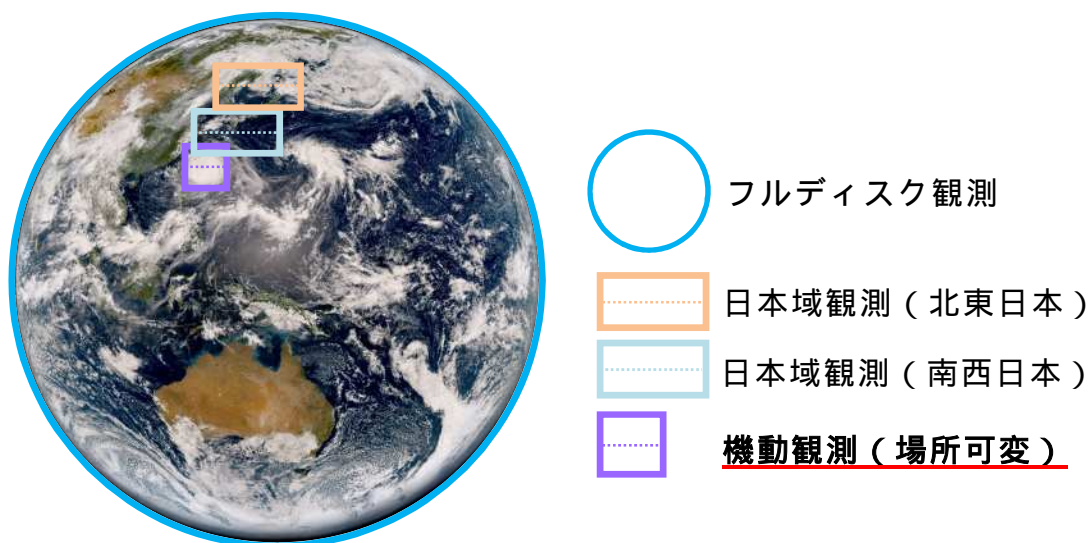


図 ひまわり 8 号及び 9 号が行う観測のイメージ

表 ひまわり 8 号及び 9 号の各観測の領域（範囲）及び観測時間間隔

種別	観測領域	およその大きさ	観測間隔
フルディスク観測	ひまわりから見える地球の全ての範囲		10 分
日本域観測	北東日本 （固定）	東西 2,000km × 南北 1,000km	約 2.5 分
	南西日本 （固定）	東西 2,000km × 南北 1,000km	約 2.5 分
機動観測	場所可変	東西 1,000km × 南北 1,000km	約 2.5 分

火山噴火

フルディスク観測(10分毎)に比べて短い観測間隔(2.5分毎)により、火山噴火の早期検出に貢献。また、連続する画像(動画)を用いることで噴火直後の噴煙をより詳細に監視することが可能に。

ツパノフスキー火山(カムチャツカ半島)の噴火(平成28年2月9日)

2.5分毎
の画像



10分毎
の画像

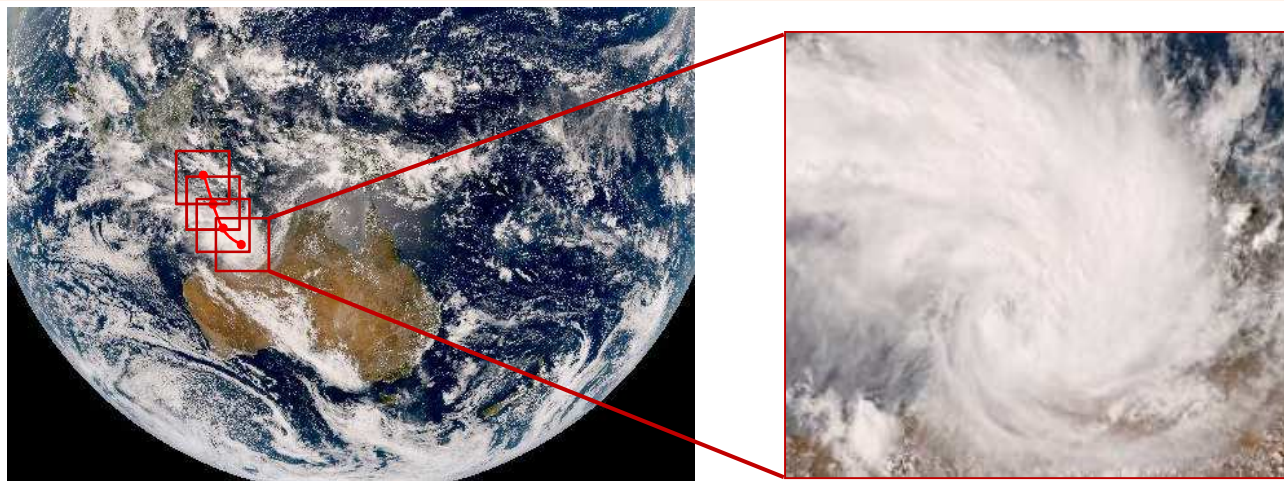


熱帯低気圧(台風又はサイクロン)

連続する画像を用いることで熱帯低気圧の構造や中心位置をより詳細に把握することが可能に。

2.5分毎の熱帯低気圧の
追跡観測が可能
(イメージ図)

オーストラリア北西部に
上陸しつつある熱帯低気圧
(平成29年12月27日)



(参考動画URL) http://www.jma-net.go.jp/sat/himawari/obsimg/image_tg.html